

大会宣言

私たちは、本日、第28回三多摩労連定期大会を開催し、2017年度の活動を総括するとともに、2018年度の運動方針を決定し、新年度の運動を推進する第28期役員を選出した。

2017年度は、憲法9条に自衛隊を書き込み、戦争法（安全保障関連法）の自衛隊海外派兵と相まって、戦争できる国づくりを完成させようとする安倍首相はじめ改憲勢力と、9条をまもり対話と国際社会の協力で平和を維持しようとする全国市民アクションに結集する労働者・国民の激しいせめぎあいの年であった。通常国会での改憲発議を狙った安倍首相と改憲勢力の計画は、半年で1350万筆の「安倍9条改憲 NO! 3000万署名」を集めた運動と世論の前に、頓挫せざるを得なかった。しかし、改憲勢力は今年度中の改憲発議に執念を燃やしている。私たちは、改憲勢力の野望を断念させるべく、3000万人の署名をあつめきるまで、宣伝・対話運動を続ける。

2017年度は、また、「過労死をなくす」「同一労働同一賃金」などというウソに塗り固められた「働き方改革」一括法案とのたたかひの年でもあった。法案審議の中で、根拠データねつ造や、残業代ゼロ法の実態、過労死をなくすどころか過労死促進法であることが明白になる中でも、与党は会期を延長してまで、強引に法案採決を強行した。この法律は来年4月から施行される。私たちは、悪法の廃止を求めるとともに、労働者の命と健康、生活と権利をまもるために、労働組合として、長時間労働規制・職場に悪法を持ち込ませないたたかひ、未組織労働者の相談活動に奮闘するものである。

1990年代後半以降、日本では労働者収入がほとんど増えず、過去10年間では実質賃金が9%も下落している。労働者の所得を増やさなければ国内経済、特に地域経済が疲弊してしまう。政府財界はアベノミクス失敗の表面化を恐れて、ベア3%などと打ち上げたが、2018年賃上げは平均で昨年をわずかに上回る程度であり、目減りした賃金は回復できていない。その中でも、貧富の差は拡大し、年収200万円を下回る労働者が1100万人以上という異常な事態が続いている。最低賃金1500円、すべての仲間の大幅賃上げは、待ったなしの課題であり、2019年春闘での前進を勝ち取るために奮闘する。

核兵器廃絶、消費税増税阻止、CV-22 オスプレイ配備反対、人格の完成めざす教育の再生など、市民要求実現に向けた運動にも奮闘する。

労働組合は、要求で団結し、要求を実現する組織である。私たちは、要求実現につながる強大な三多摩労連実現めざし、組織建設・組織拡大を中心的課題として奮闘する。

以上、宣言する。

2018年7月21日 三多摩労連第28回定期大会

横田基地へのCV22オスプレイ配備を許さず、 横田基地の撤去を求める特別決議(案)

米空軍は、昨年3月、2017年後半に横田基地に3機配備するとしていたCV22オスプレイを、「機体が確保できない」「パイロットと整備士の養成が遅れている」ことから2020年会計年度に延期する、と通告していました。

ところが今年の4月3日、今度は「確保できない」はずの機体を3機から5機に増やし、一年半も前倒して「今年の夏頃」に配備すると通告してきたのです。

実はこの通告は3月16日に日本側になされていましたが、米側の「要請」で防衛省・外務省は、地元自治体・日本国民には隠していたことが国会で暴露されました。

米空軍は、なぜこの時期に暗殺者集団である特殊作戦部隊とその足となるCV22特殊作戦航空団を、緊急に横田基地に配備しようとしたのでしょうか。

それは明らかに朝鮮半島における「南北の平和と繁栄・統一」への動きと、史上初の米朝首脳会談実現という、歴史的な大転換が前進することに異論を持つ米国内の反動勢力による牽制と威嚇に他なりません。

事実4月5日に横田基地に飛来した5機のCV22は、13日には朝鮮半島方面へ訓練に出動していきました。さらに5月末に戻ってきた5機は6月4日には嘉手納基地に飛んでいき、5日には4機がアジア太平洋地域での訓練に飛び立って行きました。

その時期こそ、4月は「南北首脳会談」の時期であり、6月はシンガポールでの「米朝首脳会談」の時期でした。朝鮮戦争終結や完全な非核化などへの行程はこれからジグザグな歩みをしながら進んでいくことでしょう。それを牽制し威嚇する軍事的手段として、暗殺者集団・特殊作戦部隊を操ることは許し難い挑発的行為です。

6月末に舞い戻ったCV22は「一時立ち寄り」と言いつつ周辺一帯や首都圏のあちこちを飛び回り、離着陸訓練などを繰り返しており、「事実上の配備ではないか」という怒りの声が上がっています。

朝鮮半島における軍事的緊張が大きく緩和し、米韓軍事演習が連続して取りやめになる中、米国は軍事的緊張をいたずらに高める横田基地への特殊作戦部隊と欠陥機CV22特殊作戦航空団の配備計画を直ちに撤回すべきです。

日本政府は、米国に対し、北東アジアにおける平和的流れに逆らうCV22の横田基地配備を直ちに取り止めるよう求めるべきです。

いま、朝鮮半島情勢が大きく変化し、「朝鮮戦争の終結」や「平和協定の締結」などに向かって関係諸国間での話し合いが進められる情勢の中、日本における米軍基地そのもののあり方が根本から問われる事態となっています。

首都東京に巨大な外国の軍事基地があることの異常さを、一刻も早く解消すべきです。日本にアメリカの戦争のための軍事基地はいりませんし、新たな基地建設など論外です。今こそ戦争のための軍事同盟を解消し、世界各地で進む平和の共同体づくりへ、日本も進んでいくべきです。三多摩労連はその実現のために共同を広げ、たたかいぬくものです。

以上決議します。

2018年7月21日

三多摩地区労働組合連合協議会第28回定期大会